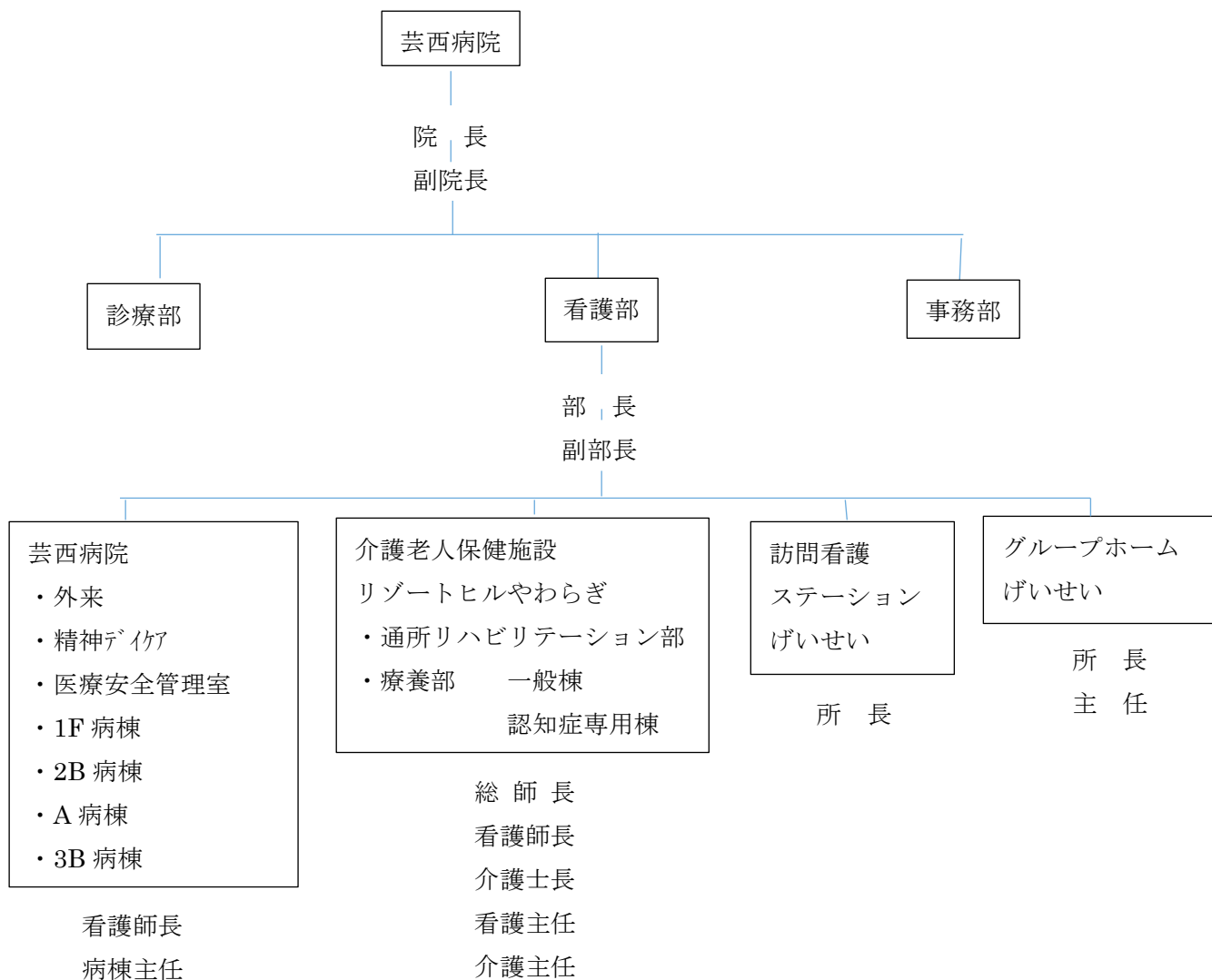


【看護部の組織図】

芸西病院看護部長室は「病院」「介護老人保健施設」「訪問看護ステーション」「認知症グループホーム」の4部門の看護職員、介護職員の人事、院内教育などを統括して運営しています。



【特色】

精神看護、老人看護、在宅看護を中心とした看護を提供しています。

看護部主任・師長のメンバーには、老人看護専門看護師、在宅看護専門看護師が各1名、認定看護管理者1名を含んで活動、運営を行っています。

主として慢性期疾患の方を対象として看護していますので、食べること、排泄すること、清潔を保つこと、活動と休息のバランスをとること、人との交流などにおいてセルフケア力を高めていけるよう、あるいは不足しているところを補完するケアに力を入れています。

また、慢性期においても症状が増悪、再発することもありますので、心身の観察や医療対応にも努めています。

【活動】

- *看護職員は、日本看護協会又は日本精神科看護協会の会員が 8 割以上です。会員は、各職能団体の研修に出張で参加しています。
- *各職能団体の高知県における活動として複数名役員として活動したり、研修の講師を務めたり、地域の催しに参加したりしています。
- *院内研修は、国が各病院・施設に努力義務を求めている新人看護職員研修プログラムを含んだ内容で研修企画、実施をしております。
- *院内研修の一環として、1年に1回、金賞・銀賞・銅賞などを設けて業務改善発表会を行い、より良いケアに一步前進していけるように努めています。
- *院外より看護アドバイザーを迎えてケース検討会を年 7 回実施しています。各部所が事例提供して、参加者は部所や職種の垣根を越えて拡大カンファレンスの形式で行い、日々の看護に活かすように努めています。
- *研究発表の機会は、法人内の「みずき研究大会」をはじめ各職能団体主催の看護学会などに承諾をいただいた事例の事例研究を中心として発表を行っています。
- *看護職員が会員になっている専門看護学会等は下記の通りです。
 - ・日本精神保健看護学会
 - ・日本看護科学学会
 - ・日本老年看護学会
 - ・日本在宅看護学会
 - ・ケアマネジメント学会
 - ・高知女子大学看護学会
 - ・日本専門看護師協議会
 - ・日本消化器内視鏡技師会
- *専門看護師等は、社会のニーズや要請に応じて研修講師やアドバイザー、シンポジスト、看護学校の非常勤講師など、幅広く活動を行っています。

【各部所の紹介】

* 医療療養病棟(1F 内科)

2017年8月現在、入院患者さんの平均年齢は 85.7 歳、医療区分 2・3 は 84%の病棟です。看護職は病状の観察や医療処置と同時に、介護職と共に褥瘡や誤嚥性肺炎、尿路感染等の身体合併症を引き起こさないように身の回りのケアに力を入れています。

また、急性期の病院から転院された方の自律に向けたケアや退院支援に向けて理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士、社会福祉士らと協働して支援しています。

* 認知症治療病棟(2B)

生活機能訓練を中心に看護職、介護職、作業療法士・精神保健福祉士各1名と協働して認知症ケアを行っています。認知症にはアルツハイマー型認知症以外にも、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、そして脳血管性認知症など様々な類型があり、類型により看護対応の工夫をしています。認知症になっても人は感情が残っており、私たちはその人らしさを大切に、尊厳を保てるように今後も努力していきたくと思います。

* 精神療養病棟(A棟)

精神症状は落ち着いてきても日常生活上の課題を抱えている方が多く、看護職は病棟医、精神保健福祉士、作業療法士、介護職と共に専門性を活かして協働しています。作業療法は回想法、歌と体操、塗り絵を含む絵画の他、院外に出かけて季節感を味わったり、量販店等で買い物をして社会性の保持に努めたりしています。また、服薬ミーティングを継続して病気の理解を深める機会とし、退院支援に向けた取組みも行っています。

* 精神一般病棟(3B)

主として、精神症状が激しい方の入院を受け入れている病棟です。看護職は、精神症状の観察をしながら、ご本人が少しずつ自分の身の回りのことを自分で出来るようにタイミングを見て関わりを持ち、回復への支援を行っています。病棟環境は閉鎖病棟でもあり、アメニティは好ましくありませんが、精神看護の経験豊富な女性看護師が多く、威圧的な雰囲気ではなく母親的な関わりが多くみられるのが当病棟の特徴です。

* 医療安全管理室

医療安全管理室は医療安全及び院内感染予防、患者サポート相談窓口を行っています。

ヒヤリハット・医療事故報告書などに基づいて病棟のラウンドをし、各部所で考えた事故防止対応策の評価を行って現場に還元しています。また、院内感染予防は、院内をラウンドして感染情報を集約し、年数回行われる感染症の外部研修で得た知識を活用して、スタンダード・プリコーション等に努めています。

患者サポート相談窓口は、医療安全管理室長以外に医療福祉部、医事課課長もメンバーになり、相談事例について適宜話し合いを行って対応しております。

* 外来部門(精神デイケアを含む)

当院の外来は、内科、精神科、リハビリテーション科の3科です。

内科は主として、近隣市町村の皆様のプライマリ・ケアの役割を担っています。内視鏡や腹部エコー等の消化器系の検査ができます。また、肝臓専門医の診察日もあります。看護師はフットケアの研修を積んでおり、爪切りなどご相談ください。

精神科は認知症専門医、精神分析を専門とする医師らが診療をしており、認知症をはじめうつ病や統合失調症などの治療に関わっています。また、小規模の精神デイケアも行っており、通所することで生活リズムを整え、同病の仲間と支え合うなどして、地域での生活の安定を図るためご利用いただいています。

リハビリテーション科は、成人、ご高齢の方のみならず、幼児、小児の発達障害を含

むりハビリテーションにも力を入れています。

医療法人おくら会げいせい看護部は、チームワークを大切に多職種と連携して、患者、利用者の皆様やご家族に満足していただける看護・介護に努めていきますので、ご不明な点やお気づきのことがありましたらご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

尚、介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ、認知症グループホームげいせい、訪問看護ステーションげいせいのそれぞれの看護、介護につきましては、各部門のコーナーをご覧ください。